

教頭通信デジタル

令和4年9月27日（火）第15号

文責：備前市立三石中学校 早川政宏

【学びの見える化】と【インクルージョン】

9月22日（木）、今年度第2回目の参観日とPTA人権教育研修会を開催しました。参観日では、1年生は国語、2年生は社会、3年生は保健体育の授業を見ていただきました。どの授業もICT機器を効果的に活用した、生徒が主役の授業でした。いずれも、教師主導型（講義形式）ではなく、ペアやグループでの協働学習をとおして意見や考えを重ね合わせる生徒主導型（学び合い形式）の授業が展開されていました。本校の先生方は今までの授業スタイルにこだわらず、すべての生徒が深い学びができるような授業づくりに取り組んでいます。**【学びが見える】**授業を今後も継続していきます。



【主体的に取り組んでいました】



【ペアで学び合いました】



【グループで意見を交換しました】



そして、参観日終了後は、体育館に移動し、PTA人権教育研修会を行いました。関西福祉大学 社会福祉学部の萬代 由希子（まんたい ゆきこ）先生から、「共生社会の実現に向けて～対話を通じた障害への理解～」と題して、お話を伺いました。萬代先生は「社会福祉」がご専門で、大学ではご自身の研究と社会福祉士や精神保健福祉士をめざす学生の指導に当たられています。また、NPO法人アエソンの理事や西播磨圏自立支援協議会の委員を務めるなど、社会貢献活動にも積極的に取り組まれています。

研修会の前半は障害の概念や関係する法令、直接差別と間接差別の具体的な事例、合理的配慮について学ぶことができました。後半は生徒・保護者・教員を9グループに分け、グループワークを行いました。グループでのディスカッションをとおして、排除・隔離・統合ではなく、**【インクルージョン（共生社会の実現）】**をめざすことの大切さを学ぶことができました。萬代先生、誠にありがとうございました。

